

第 69 回 発電用設備規格委員会 火力専門委員会 議事録

1. 日 時:2014 年 8 月 21 日(木)13 時 30 分～15 時 30 分

2. 場 所:日本機械学会 第1会議室

3. 出席者:(委員 20 名中、出席者 20 名(うち代理 2 名)、欠席者なし)

小溝(阪大)、藤田(MHPS)、飯田(東電)、三好(川崎重工)、松田(HSB ジャパン)、
松本(東芝)、佐藤(発電技検)、長谷川(新日鐵住金)、野田(経産省)、大橋(IHI)、
三原(富山大)、天野(早大)、岡(富士電機)、鈴木(電源開発)、屋口(電中研)、桑野(関電)、
五代儀(火原協)、高川(パブ日立)

代理者:椎名(野井:ロ仆)、井手(木村:NIMS)

欠席者: なし

オブザーバ:古屋(自家発電)、長尾(中電)、茂田井(東電)

事務局: 原

4. 配付資料

火 69-1 第 68 回火力専門委員会議事録(案)

火 69-2 専門委員会・分科会委員案

火 69-3 第 69 回規格委員会議事録(案)

火 69-4-1 材料分科会報告

火 69-4-2 構造分科会報告

火 69-4-2- 2 JSME 発電用火力設備規格詳細規定(2012 年版) JSME S TA1-2012 正誤表(案)

火 69-4-2- 3 同上 対象規定(抜粋資料)

火 69-4-3 溶接分科会報告

火 69-4-4 配管減肉分科会報告

火 69-5 火力専門委員会書面投票結果

火 69-6 火力発電設備に係る規格の国際適合化について(第6回電力安全小委員会資料)

火 69-7 発電技研委託調査委員会への委員の派遣について

5. 議事

(1) 前回議事録確認

[資料 火 69-1]

前回議事録(案)について確認を行ない、議事録案は承認された。

(2) 専門委員会委員、役員の承認

(2-1) 専門委員会委員の承認

[資料 火 69-2]

火力専門委員会の以下の委員の再任意向および新任候補が報告された。採決を行った結果、出席委員全員の賛成により、次回規格委員会に推薦することが承認された。また、以下の退任委員が報告された。

・ 火力専門委員会:(退任)西川 由隆委員、奥村 桂三委員、鈴木建哉委員

(新任候補)古屋 芳人氏(大口自家発電施設者懇話会)、

長尾 和彦氏 (中部電力(株) 発電本部 火力部 建設グループ)

沖 健志朗氏 ((一社)日本電気協会 技術部)

(再任候補)大橋 宏康委員、屋口 正次委員、鈴木 伸介委員

各分科会の以下の新任候補の推薦および以下の委員の再任意向および役員の互選による推薦が報告された。採決を行った結果、出席委員全員の賛成で承認された。

- ・ 材料分科会:(新任候補) 妹尾 剛明氏(関西電力(株)火力事業本部火力建設部門)
(退任) 根岸 睦 委員
(再任) 伊藤 拓哉委員(副主査)、齊藤 健介委員
- ・ 構造分科会:(新任候補) 妹尾 剛明氏(関西電力(株)火力事業本部火力建設部門)
(退任) 根岸 睦委員
(再任) なし
- ・ 溶接分科会:(新任候補) 大橋 憲二氏(中部電力(株)発電本部 火力部 建設グループ)
米田 仁紀氏(関西電力(株) 火力事業本部 建設技術グループ)
(退任) 中村 健也委員、根岸 睦委員
(再任) なし
- ・ 配管減肉分科会:(新任候補) なし
(退任) なし
(再任) なし

(3) 規格委員会、分科会他報告

(3-1) 発電用設備規格委員会報告

[資料火 69-3]

第 69 回発電用設備規格委員会の審議内容のうち、火力専門委員会に関連する内容が報告された。特記事項は以下の通り。

- ・ 火力専門委員会委員・役員の承認
- ・ 火力専門委員会報告(分科会活動報告、専門委員会運営規約改定提案に対する投票状況、日本規格協会／圧力容器技術委員会への委員派遣等に対する報告。)
- ・ 火力専門委員会関連の審議事項はなし。

(3-2) 材料分科会報告

[資料 火 69-4-1]

井手材料分科会幹事が第 72 回材料分科会(H26.8.4)の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は以下のとおり。次回は 2014 年 10 月 29 日(水)に開催予定。

- ・ 火技解釈の一部改正に対するパブコメおよび第6回電力安全小委員会における関連情報が報告されたこと。
- ・ 構造分科会に相談した内容(ASME Sec2 Part Dの取り込み)について、構造分科会からの確認結果の報告を受け、内容を確認したこと。
- ・ 審議履歴表を元にレビュー票審議の状況を報告。
→(コメント) 火SCPH91等の一部許容応力見直しに関連して、寿命評価式も見直しが必要であるので、事例規格(JSME S TA-CC-001)のメンテについて確認が必要。

(3-3) 構造分科会報告

[資料火 69-4-2]

飯田構造分科会主査が第 81 回構造分科会(H26.8.5)の審議事項および決定事項について報告を

行った。主な内容は以下のとおり。次回は 2014 年 11 月 5 日(水)に開催予定。

- ・ 正誤表の作成について [資料火 69-4-2-2、69-4-2-3]
担当委員から作成・説明のあった正誤表について審議を行ったことを報告。審議済みの正誤表について説明した。引き続き正誤表の作成を進めていく予定。
- ・ 材料分科会からの相談事項について
 - (1) 第Ⅴ章「リストにない材料」での ASME Sec.Ⅱ, Part D 引用について
8月4日の材料分科会にて構造分科会の検討結果(本規格の許容応力表にない材料の使用を制限付きで認める規定であり、引用して問題ない)を説明したことを報告。
 - (2) ASME Sec. VIII, Div. 1 Subsection C, Part UNF の取り込みについて
本規格内で ASME 等を引用している箇所を整理した上で、必要性が高いものから取り込みを検討する方針とし、その中で本件(CC-2652 備考の Part UNF)についても検討することとした。
- ・ 審議履歴表を元にレビュー票審議の状況について報告。
- ・ メール審議により、ASME Sec.I APPENDIX B は取り入れ不要とした。

(3-4) 溶接分科会報告

[資料 69-4-3]

茂田井溶接分科会幹事が、第 61 回溶接分科会(H26.7.23)の審議事項および決定事項について報告を行った。主な内容は、以下のとおり。次回は 2014 年 10 月 30 日(木)に開催予定。

- ・ 審議履歴表を元にレビュー票審議の状況について報告した。
RTとUTの同等性を文献調査することに関して、以下のコメントがあった。コメントを踏まえ、分科会にて引き続き検討する。
 - RTとUTの比較を厳密に突き詰めると同等ではないという結果になるので、同等性にあまり囚われない方がよい。ASME では、それぞれの手法の特徴を認めた上でエンジニアリングジャッジし、体積検査として両者を使用できるようにしたもの。
 - UTは以前より性能が向上しており、必ずしもRTより劣っているわけではないが、それぞれ良いところ悪いところがある。RTとUTの検出能力については各種の試験がなされており、ブローホールはRTが優位、閉じた亀裂は逆にUTが優位である。全ての欠陥を検出しようとする両方必要ということになってしまう。
 - 同等ということを確認する必要はなく、規格としては minimum requirement を規定し、使用者がそれぞれの特長を分かった上で、上手に使ってもらうのが良い。

(3-5) 配管減肉分科会報告

[資料 69-4-4]

井手配管減肉分科会主査が第 7 回配管減肉分科会(H26.4.25)の審議事項および決定事項について報告を行った。主要な項目は以下のとおり。次回は 2014 年 11 月 7 日(金)に開催予定。

- ・ 電気事業連合会からの配管減肉速度データに関する報告
電気事業連合会から、配管減肉分科会からの依頼によりデータの収集分析を行った配管減肉速度データ(H22 年～H25 年)について報告があり、確認をおこなったところ H21 年までのデータを超える減肉速度はなかった。
- ・ 放射線透過式配管肉厚測定装置について
富士電機から、新しい方式である放射線透過式配管肉厚測定装置について、測定装置の概要、

測定原理などについて説明があり、審議を行った。

- ・火力設備配管減肉管理技術規格 2009 年版のレビューを行っており審議履歴表を元に審議の状況について報告した。

(3-6) 火力専門委員会書面投票結果報告

[資料 69-5]

火力専門委員会投票(No. 64)の結果について報告。投票結果は賛成 17 票、反対 0 票、保留 5 票で可決となった。4専門委員会とも投票結果は可決。

現在、4専門委員会の保留意見等に対する提案者の対応案について、意見者へ確認依頼中。(火力専門委員会では保留意見 5 名、参考意見 2 名)

(3-7) 電力安全小委員会における関連情報報告

[資料 69-6]

飯田幹事から、7 月 17 日開催の電力安全小委員会での JSME 規格に関する関連情報について報告があった。この委員会において、JSME 規格基本規定(2012 年度版)を火技解釈に取り込むことが、今後の方向性として示された。

(4) 審議事項

(4-1) 発電設備技術検査協会の調査委員会への委員派遣依頼について

[資料 69-7]

発電設備技術検査協会が本年度に、委託調査「平成26年度発電用火力設備技術基準等国際化調査(IIP)」の実施を予定している。火力専門委員会に対して、この調査の委員会へ委員派遣の依頼があり、派遣委員の選任について三役一任とすることが了承された。

6. 次回開催予定

日 時:2014 年 11 月 18 日(火) 13:30～17:00

場 所:日本機械学会 第3・4・5会議室

以 上